

第25回

十勝川中流部川づくり報告会

令和7年3月15日

十勝川中流部市民協働会議

令和6年度の活動報告

活動報告

- ① 相生中島地区上流湿地
- ② 光南水辺の楽校（除草、WS）
- ③ ウツベツ川（パネル付け替え、観察会）
- ④ その他活動
（礼作別ビオトープ水生動物調査、水生動物観察会、いい川づくりWS
札内川スノーシューおさんぽ会）
- ⑤ 相生中島地区上流湿地におけるSDGs

※ 高校連携についての活動は、別途発表

①相生中島地区上流湿地 活動2回

No	場所	日付	内容
1	相生中島地区上流湿地	R6. 5. 14~17	ヤナギ幼木刈取り
2	相生中島地区上流湿地	R6. 4~R7. 1	資料収集※

※ 相生中島地区上流湿地での活動では、一般社団法人石狩川振興財団から助成を受け、上流湿地に生息する生物を動画で記録するために資機材を購入し撮影を行いました。

十勝川相生中島地区上流湿地のヤナギ幼木刈取り

日時	令和6年5月14日(火)～5月17日(金)
場所	十勝川相生中島地区上流湿地
目的	周辺草地や堆積土砂に自生するヤナギ類について、再樹林化抑制・防止、湿地環境維持などのため。
内容	相生中島地区上流湿地は、十勝川の流下断面確保と再樹林化防止を目的に、平成24～25年度に掘削したことにより形成されました。 相生中島地区上流湿地の水際に生育しているヤナギ幼木の除去活動を行っています。



ヤナギ幼木刈取り状況

相生中島地区上流湿地ヤナギ幼木刈取りの作業前後状況



中州下流側除去前



中州下流側除去後



上流側除去前



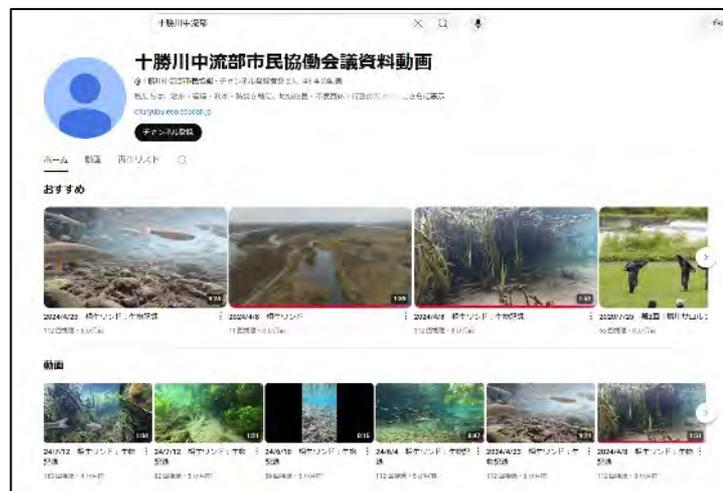
上流側除去後

十勝川相生中島地区上流湿地の水中生物記録

日時	令和6年6月～令和7年1月
場所	十勝川相生中島地区上流湿地
目的	人工湿地に生息する魚類、底生動物等の動画を撮影し、人工湿地造成後の湿地性動物の生態を動画で情報発信するため。
内容	石狩川振興財団の助成を受け、水中撮影が可能なGoPro、水中撮影時に河床の砂泥を巻き上げさせないようにゴムボートを購入し、この湿地内に生息する魚類の撮影を行いました。また過年度に作成したYouTubeのチャンネルを利用し、撮影した動画を編集して公開しています（不定期更新）。



ゴムボート上での水中撮影状況



十中協のYouTubeチャンネル

QRコード



相生中島地区上流湿地の水中生物記録（動画から抜粋）



ウグイ属の一種



モツゴ
(国内外来種)



ジュズカケハゼ
(国:準絶滅危惧)



フナ属の一種とイトヨ



エゾホトケドジョウ
(国:絶滅危惧IB類、道:絶滅危惧IB類)



ヒメミズカマキリ

②光南水辺の楽校 活動2回

No	場所	日付	内容
1	光南水辺の楽校	R6. 6. 11	実のなる木付近の除草作業
2	光南水辺の楽校	R6. 7. 19	川で遊ぼう！ 札内川・光南地区水辺の楽校

光南地区 水辺の楽校「実のなる木」周辺の除草

日時 令和6年6月11日（火）

内容 光南地区水辺の楽校は、あじさい保育園の園児や地域の方々の散策の場として利用されています。平成29年度～令和2年度には水辺の楽校内の散策路沿いに「実のなる木」の植樹会を行いました。この活動は、水辺の楽校が健全に活用されることを願い、散策路と植樹した木々の周りの除草を行ったものです。



①



②



③



川で遊ぼう！ 札内川・光南地区 水辺の楽校

日時	令和6年7月19日（金）9：30～12：00
場所	光南水辺の楽校（札内川）
参加者	<ul style="list-style-type: none">・あじさい保育園 園児 70名程度、保育士 10名・運営人員（計22名） 帯広開発建設部 帯広河川事務所 8名 十勝川河川協力団体連合 14名 （内 十勝川中流部市民協働会議 10名）
イベント内容	水生動物等の観察会
主催	あじさい保育園、帯広開発建設部帯広河川事務所、NPO法人十勝多自然ネット、帯広NPO28サポートセンター、十勝川中流部市民協働会議



記念撮影



水生動物を捕獲している様子



水生動物を観察している様子

③ウツベツ川 活動2回

No	場所	日付	内容
1	ウツベツ川	R6. 6. 17	パネル付け替え
2	ウツベツ川	R6. 9. 11	帯広厚生病院どんぐり保育所 水生動物観察会

ウツベツ川パネル付け替え

日時	令和6年6月17日（月）
場所	ウツベツ川左岸管理用道路
内容	令和2年10月に、ウツベツ川の管理用道路沿いのフェンスにどんぐり保育所や緩和ケア病棟の患者さんが散策や歩行訓練を行う際の目安となるパネルを設置しました。パネルの経年劣化により写真や文字が見づらくなってきたため、新しくパネルを作成し付け替え作業を行いました。この活動は石狩川振興財団の助成を受けています。



旧パネル



新パネル



付け替え作業状況



どんぐり保育所の子供たち

帯広厚生病院どんぐり保育所水生動物観察会

日時	令和6年9月11日（水）9：30～11：00
場所	ウツベツ川左岸親水護岸箇所（帯広厚生病院沿い）
参加者	<ul style="list-style-type: none">・帯広厚生病院 どんぐり保育所 園児 20名、大人 5名・運営人員（計11名） 十勝総合振興局帯広建設管理部 4名 十勝川中流部市民協働会議 7名
イベント内容	水生動物等の観察会
主催	十勝川中流部市民協働会議
協力	十勝総合振興局帯広建設管理部



捕獲方法実演



水生動物を捕獲している様子



水生動物を観察している様子

④ その他 活動4回

No	場所	日付	内容
1	礼作別ビオトープ	R6. 7. 8	水生動物調査
2	相生中島地区ワンド	R6. 9. 14	小中学校教職員を対象とした水生動物観察会に参加
3	石川県白山市	R6. 9. 28-9. 29	第16回 いい川・いい川づくりワークショップ
4	札内川	R7. 2. 1	札内川スノーシューおさんぽ会

礼作別ビオトープ水生動物調査

日 時	令和6年7月8日（月）
場 所	十勝川右岸礼作別ビオトープ
参加者	・ 十勝川中流部市民協働会議 9名 ・ 帯広開発建設部 池田河川事務所 3名 計 12名
目 的	造成25年が経過した礼作別ビオトープにどのような生物がいるのかを確認するため。
内 容	今後始まる十勝川自然再生事業に向けての情報収集の一環として、平成11年に高水敷の土取り場跡地を利用して造成された礼作別ビオトープで、水生動物（植物、底生動物、トンボ類、魚類）の概要調査（定性的調査）を実施しました。



水生動物を捕獲している様子



捕獲した水生動物
(写真左:ヤチウグイ×2、右:エゾホトケドジョウ)



水生動物を計測している様子

土取場跡地における湿地ビオトープ造成

十勝川礼作別湿地ビオトープ 平成11年（1999年）工事終了

十勝川右岸中水敷 KP 6/23 ~ 4/24



十勝川河口

平成11年（1999年）掘削前



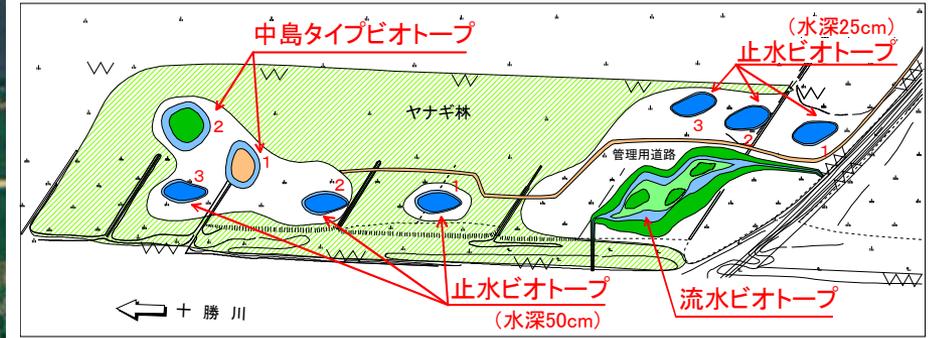
平成11年（1999年）掘削直後



土取場跡地における湿地ビオトープ造成

礼作別 湿地ビオトープ

ビオトープ造成後に確認された
主な重要種 (止水25cm)



7月8日
調査地

施工翌年 空中写真 (平成12年6月撮影)

礼作別ビオトープ水生動物調査

調査日：令和6年（2024年）7月8日

分類	科名	種名	個体数	重要種		備考
				環境省RL(2020)	北海道RL(改訂年)	
魚類	コイ	ヤチウグイ	26	準絶滅危惧	準絶滅危惧(2018)	
	ドジョウ	ドジョウまたはキタドジョウ	2	備考欄参照	-	・ドジョウの場合は環境省RL:準絶滅危惧 北海道では国内外来種 ・キタドジョウの場合は環境省RL:情報不足
	フクドジョウ	エゾホトケドジョウ	8	絶滅危惧 I B類	絶滅危惧 I B類(2018)	
貝類	タニシ	マルタニシ	-	絶滅危惧 II 類	-	
	モノアラガイ	モノアラガイ	-	準絶滅危惧	-	
昆虫類	トンボ	エゾカオジロトンボ	-	準絶滅危惧	絶滅危急種(2001)	2024年6月29日確認
	コオイムシ	オオコオイムシ	-	-	希少種(2001)	
	マツモムシ	マツモムシ	-	-	-	
	ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ	-	絶滅危惧 II 類	-	
		キベリクロヒメゲンゴロウ	-	準絶滅危惧	-	
	ガムシ	エゾコガムシ	-	準絶滅危惧	留意(2019)	
エゾガムシ		-	準絶滅危惧	情報不足(2019)		
植物	ガマ	ミクリ	-	準絶滅危惧	希少種(2001)	
	タヌキモ	イヌタヌキモ	-	準絶滅危惧	-	



ヤチウグイ



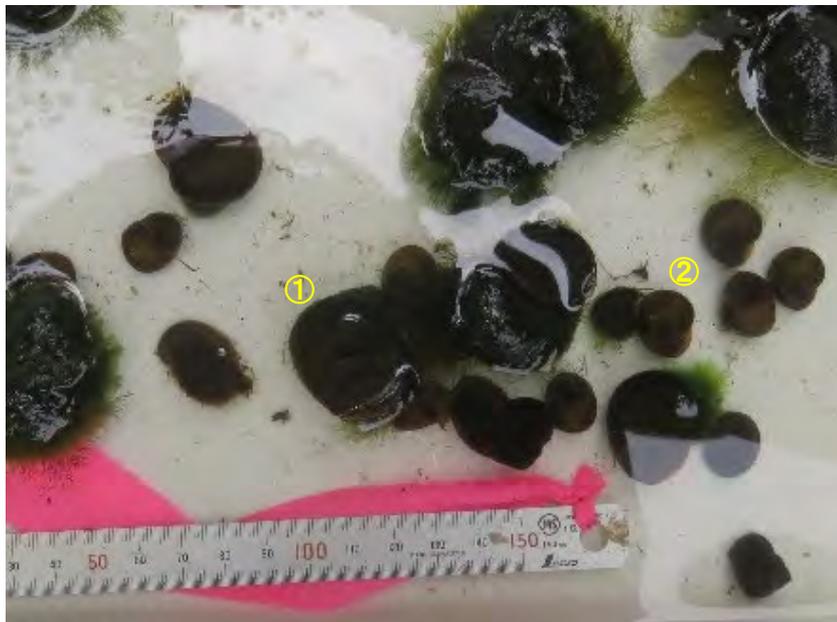
ドジョウまたはキタドジョウ



エゾホトケドジョウ

礼作別ビオトープ水生動物調査

貝類



- ①マルタニシ
- ②モノアラガイ

昆虫類



- ① オオコオイムシ
- ② マツモムシ
- ③ マルガタゲンゴロウ
- ④ キベリクロヒメゲンゴロウ
- ⑤ エゾコガムシ
- ⑥ エゾガムシ

小中学校教職員を対象とした水生動物観察会に参加

日 時	令和6年9月14日（土）
場 所	十勝川相生中島地区ワンド
目 的	水生動物の採集方法、魚類や水生昆虫に関する知識を得る機会を設けることで、教職員が生徒を指導する際の一助とするため。
内 容	十勝川中流部における河川を活用した学習活動として、十勝管内の小中学校教職員を対象とした水生動物観察会（帯広河川事務所主催）の運営補助として、当箇所を活動範囲とする十勝川中流部市民協働会議が協力しました。



作業状況説明



水生動物を観察している様子
(写真左:講師 倉西良一)



水生動物を捕獲している様子
(写真右:事務局 橋本)

第16回 いい川・いい川づくりワークショップ in 白山手取川

日 時	令和6年9月28日（土）10：30～18：00、9月29日（日）9：00～15：30
場 所	金城大学 笠間キャンパス（白山市笠間町1200番地）
内 容	<p>7月7日の川の日<small>（川の日）</small>の記念行事として始まり、今回で16回目（川の日ワークショップからの通算では26回目）となります。全国のいい川づくりを行っている個人や団体が日頃の活動を発表して、“より良い いい川づくり”について全国規模で共有できる場となります。</p> <p>今年は、全国から28団体が参加し、十勝からは2団体が参加し、<u>当会は農業高校との活動について発表し、「入選」</u>しました。</p>



開会式



会場の様子(1日目)



会場の様子(2日目)

ワークショップの様子

全体発表
(1日目)



全体選考
(2日目)



テーブル選考
(1日目)



表彰式
(2日目)



投票
(1日目)



発表パネル



札内川スノーシューおさんぽ会

日 時	令和7年2月1日（土）
場 所	札内川上札内橋
参加者	一般参加者：12名 スタッフ：11名 計 23名
内 容	中札内村観光協会主催による厳冬期トレッキング（行事名「札内川スノーシューおさんぽ会」）への支援と当日のサポートとして、十勝川中流部市民協働会議が協力しました。



行程説明



ヤマブドウの味見



スノーシュー装着



雪中行軍



水生動物観察
(右上写真:冬眠中のエゾアカガエルを捕獲)



ヤナギ観察

SDGsの取り組み

2024年度の成果

相生中島地区上流湿地における
湿地環境維持管理の継続でSDGsへの貢献

具体的な数値目標とロードマップによる現状と方向の把握

十勝川中流部市民協働会議

SDGsとは「持続可能でより良い世界を目指す国際目標」



当会は13・15・17について取り組んでいます

当会としての「SDGs」に対する考え方

1. SDGsを『美しいスローガン』にするのではなく、
数値指標と具体的な行動の課題別目標に明確化する。
2. 進捗率と進むべきベクトルを定期的にチェックしながら行動する。



13 【気候変動に具体的な対策を】

行動：再樹林化を防止し、湿地、草原環境を維持することで、再繁茂するヤナギ林の伐採量を減らしその工事に伴う温室効果ガス（二酸化炭素量）を抑制する。

目標：2030年までに温室効果ガスを45%削減する。



15 【陸の豊かさを守ろう】

行動：ヤナギ単層林から多様なハビタットへの変化で創出した、生物多様性を維持する。

目標：湿地環境の創出により39%増加した生物種数を2030年まで維持する。



17 【パートナーシップで目標を達成しよう】

行動：川づくりにおけるアイヌ民族文化とのパートナーシップと民族文化伝承へ協力する。

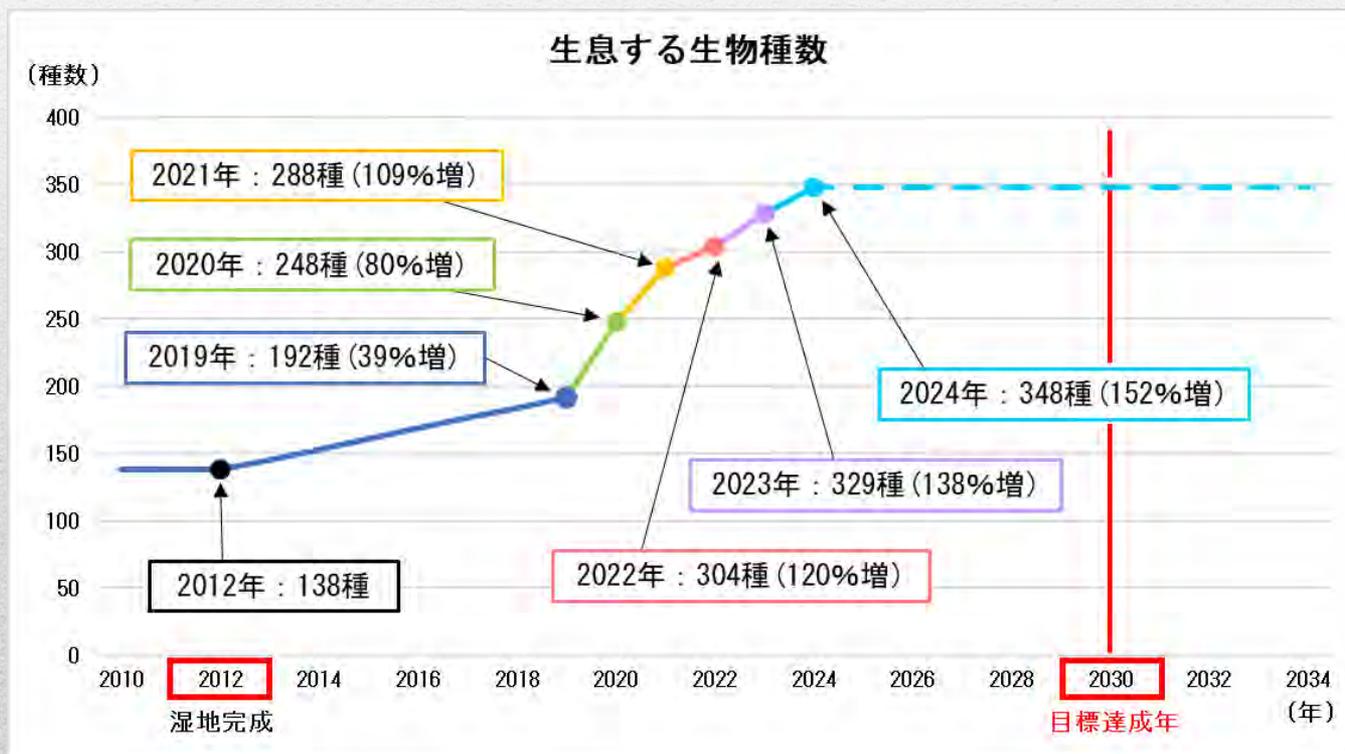
目標：32.4m²/年のゴザ原材料のガマを提供し続ける。

目標(2020年に計画)：湿地環境の創出により39%増加した生物種数を2030年まで維持する

2024年度の成果

植物調査：35科115種（新確認種 9種）、魚類調査：6科10種（新確認種 2種）、底生動物：6科8種（新確認種 2種）、鳥類：17科25種（新確認種 4種）、トンボ類：5科18種（新確認種 2種）を確認

今年度の生物モニタリングで新たに19種確認し、**湿地造成前（138種）から152%増の累計348種**となった。

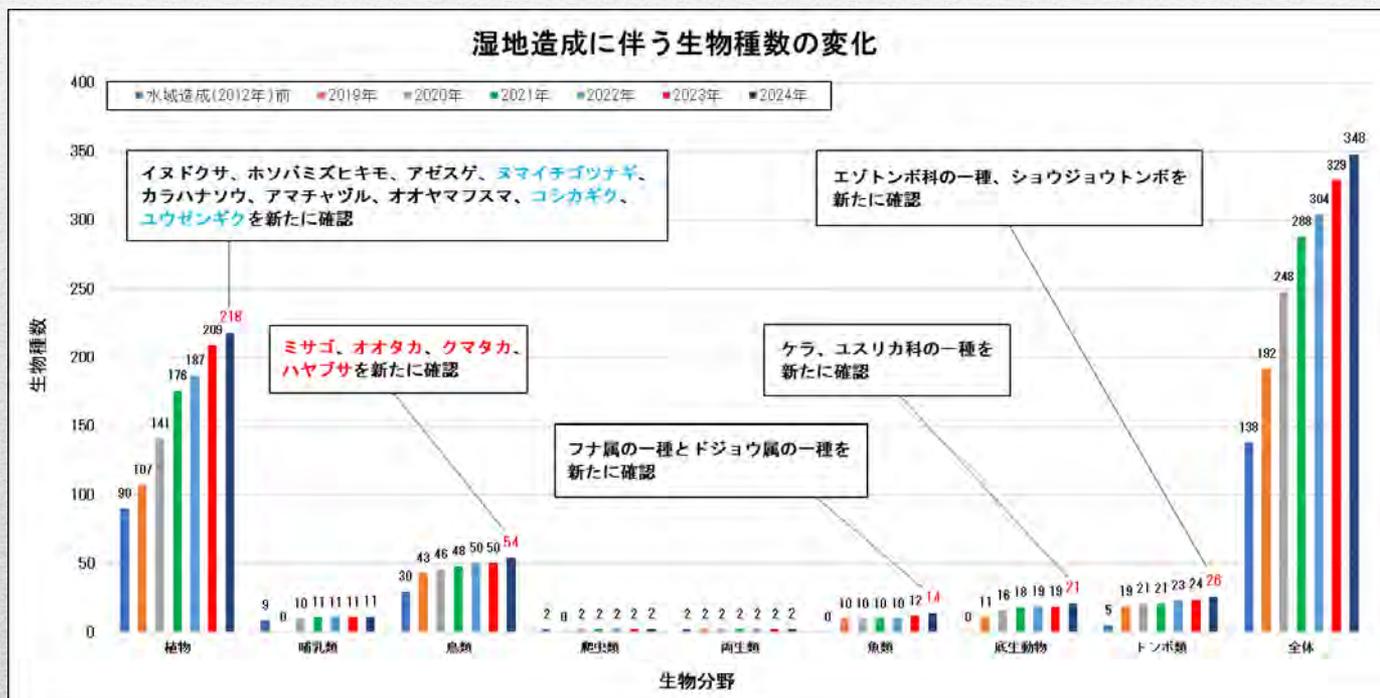


※グラフ内の「%」は2012年からの生物種数の増加率です。

目標(2020年に計画)：湿地環境の創出により39%増加した生物種数を2030年まで維持する

2024年度の成果

鳥類では「**ミサゴ**」、「**オオタカ**」、「**クマタカ**」、「**ハヤブサ**」、魚類では「フナ属の一種」と「ドジョウ属の一種」、植物、底生動物、トンボ類ではグラフ内に記載した種を新たに確認した。



ミサゴ(重要種)



オオタカ(重要種)



フナ属の一種



※赤字:重要種 青字:外来種

SDGsとは「持続可能でより良い世界を目指す国際目標」



今後も氾濫原湿地の多様なハビタットを維持することで、湿生生物の生息環境を提供し続け、生物の多様性向上にも貢献していきたい。